

信濃の國

$\text{♩} = 96_f$

(一) シナノクニハ ジーッシーニ
 (二) よもに光あそぶ 女ま女まは

mf

サ一カイツラナルクニニシテ
 おんたけのりくらこまがたけ

ソビエルクマハイタカク
 あさまはこゝにくつぐざん

ナガルルカ一カハるヌトオシ
 ヲグ水もく一にのしづめなり

f

マツモトイ一キ一ツタセシコウ一ジ
 ね一ガ水一ど一まぢあぐみ一づは

ヨ一ツノヤ一ハハヒコクノチ
 き一たにさ一ツがけちくまがは

f

ウミコソナ一ケレモノサワニはヨールロツ
 みはみにさ一がはてん一ガハ 1.2.5.6 3

ターラ一ツヌコト一ゾナーキ
 く一にのかた一めな一り

mp

(四) {
 4 ツネマホ一シキソノハラ
 7 ルヒトオ一キツカマノ

inf

マツビノヤドリ一ノネガメノトコキ
 ユツキノナニターツヲバステママシ

f

ソノカケハシカケシヨ
 ルキノイ一トミヌビヲガシ

rit.

コロシテ一ユケクヌ一ダバシ
 カ一ヨミ一テゾツターヘタ-----ル

D.C.

一 信濃の國

信濃の國は十州に
從耳ゆる山は
松平伊那信久善光寺
海こそなけれ物澤に

境連ぬる國にして
流る川は肥沃の地
萬の平は肥沃の地
萬足らばね事ぞふる

二
四方に從耳ゆる山々は
浅間は殊に活火山
流小定よ下川
南に木曾川・天龍川

御嶽・兼鞍・駒ヶ岳
北に犀川・多曲川
此小亦國の固めなり

三
木曾の谷には榎繁なり
民のかせぎし曲豆に
細き線も軽からぬ

諏訪の湖には魚多し
五穀の實らぬ郷である
養蚕の業も打ひらけ
國の命を司なむなり

四
たづねま欲く園原や
木曾の棧道かけせも
来る人多く筑麻の湯
著る名所は雅男か

旅の宿の寢覚の床
心してつけ糸路橋
月の名に立つ姨捨山
詩歌に詠みてぞ傳へたる

五
旭將軍義仲も
春日台太宰先生も
皆此國の人のく
山と從耳えてせに仰ぎ

仁科の五郎信盛も
象山信久南先生も
文武の興る類なく
川と流れそ名は書さず

六
吾妻はやと日本武
穴穿つトンネル二十六
道一筋に学いなるは
十の末山原の香でなる

愛さ給ひ碓氷山
夢にも越ゆる汽車の道
昔の人はや劣るべき
國に偉人のあはるなり

居る處、必ずこの歌ありと申すべく、時に獨り居りても靜かに口誦し、集れば又唱和して参りました。此の崇高な曲と歌詞は自ら溫雅な情操を培い、高い信州人の誇りと自覺を深め、愛郷の精神、又湧然たるものがあります。

私共は左記の諸點により、コロムビア盤が最も優秀であることを認めまして推薦いたす次第であります。

- 一、編曲は縣出身の新進作曲家小山清茂氏が、郷土愛に燃えて心魂を傾けたものであります。
- 一、昭和二十七年九月長野縣音樂教育學會總會の席上、全縣の音樂關係教諭により合唱され、この編曲の優秀な事が確認されました。
- 一、一番から六番までの全歌詞を餘す處なく、忠實、正確に美しく吹込んであります。
- 一、合唱、管絃樂伴奏はコロムビアのベストメンバーにより最善を盡しております。
- 一、獨唱のソプラノ歌手淺野千鶴子女史、テノール歌手鷺崎良三氏アルト歌手三枝喜美子女史は共に當代一流の聲樂家であります。
- 一、吹込の際には編曲者及縣音樂教育學會役員が責任を以つて指導監査致したものであります。

以上再發賣には慎重を期し、吹込には一流の聲樂家に委嘱し、最新の技術をもつて製作された高級盤でありまして、名曲『信濃の國』の名に、じない音盤であると存じ、大方の御期待に添い得るものと信じ、推薦致した次第であります。

昭和二十八年六月

長野縣人會連合會
 信濃教育會
 長野縣音樂教育學會

B 3 1 3

信濃の國

淺井 冽作詞
 北村 晴編曲
 小山 茂編曲
 足羽 章制作

ソプラノ 淺野千鶴子
 アルト 三枝喜美子
 テナー 鷺崎良三
 バス 尾籠晴夫
 コロムビアオーケストラ 合唱團

B 3 1 3

推薦
 長野縣人會連合會
 信濃教育會
 長野縣音樂教育學會

日本コロムビア株式會社

一、信濃の國は十州に 境つらぬる國にして
そびゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し
松本伊那佐久善光寺 四つの平は肥沃の地
海こそなければ物さわに 萬す足らわぬ事ぞなき

二、四方にそびゆる山々は 御嶽乗鞍駒が岳
淺間は殊に活火山 いずれも國の鎮めなり
流れ淀まずゆく水は 北にさい川千曲川
南に木曾川天龍川 これ又國の固めなり

三、木曾の谷には眞木茂り 諏訪の湖には魚多し
民のかせぎも豊にて 五穀の實らぬ里やある
しかのみならず桑とりて こ飼の業の打ちひらけ
細きよすがも輕からぬ 國の命を繋ぐなり

四、尋ねまほしき園原や 旅のやどりの寢覺めの床
木曾の棧橋かけし世も 心して行け久米路橋
來る人多き筑摩の湯 月の名に立つおば捨山
しるき名所と風雅士が 詩歌に詠みてぞ傳えたる

五、朝日將軍義仲も 仁科の五郎信盛も
春臺太宰先生も 象山佐久間先生も
皆此の國の人にして 文武の譽たぐいなく
山とそびえて世に仰ぎ 川と流れて名は盡きず

六、吾妻はやとし日本武 嘆き給いし碓氷山
穿つ隧道二十六 夢にもこゆる汽車の道
道一すじに學びなば 昔の人にや劣るべき
古來山河の秀でたる 國は偉人のある習い

(新かなづかい法による)

音盤 『信濃の國』 推薦の辭

長野縣民歌と謳われて廣く縣人に親まれて來た『信濃の國』が此度コロムビア會社より音盤として再發賣される事になりました事は、誠に御同慶に堪えない次第であります。信濃の國の音盤は、嘗て、コロムビア會社より發賣されましたが、昨今所持するもの少く、これとても殆んど磨滅して使用に堪えぬまでになつて居り、在縣外の諸賢は申すに及ばず、縣内識者學校職員等より、立派な音盤の再發賣を熱望する聲が日に高く、此處にこの要望に應えて、在京長野縣人會連合會、信濃教育會、長野縣音樂教育會が連合して、其音盤の再發賣に協力することになりました。改めて申添えるまでもなく、『信濃の國』は信州の大先輩故淺井冽先生作詞北、季晴氏の作曲になり、實に信州の生んだ名曲であります。遠く明治、大正、昭和の三時代に亘つて燦として輝き、幾十年來我々信州人に愛唱されて參りました。縣内外を問わず、又遠く外地に於ても、長野縣人の

一月一日

(一)

年の始めの

タメシ
例とて

終りなき世のめでたさを

松竹たてて 門ごとに

祝う今日こそ 楽しけれ

(二)

初日のひかり さしいでて

ヨモ
四方に輝く 今朝のそら

君がみかげに タゲ
比えつつ

アオ
仰ぎ見るこそ 尊とけれ